

世界へ松濤中生 (Achieve a role in the global community)

自立 (Grow) 尊重 (Respect) 創造 (Create)

学校だより

■HP、Address

<http://academic1.plala.or.jp/shoto/>

■発行
渋谷区立松濤中学校
渋谷区松濤1-20-4
■代表電話
TEL 03-3469-2451、2452
■発行責任者
校長 斉藤 茂好

NO. 5

10/4

平成29年度

体力改善向上

平成29年度 東京都児童生徒体力運動能力等調査

1年男子									
身長	体重	握力	上肢筋力	両手体前屈	両腕体前屈	持久走	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
松濤中学校	154.0	42.4	24.0	26.1	37.9	59.7	394.9	8.3	185.7
全 国	153.4	43.9	24.6	24.5	40.3	49.5	316.1	9.4	181.0
「スコア」	39.7	48.3	49.1	32.8	47.3	51.9	33.7	48.6	51.9
2年男子									
身長	体重	握力	上肢筋力	両手体前屈	両腕体前屈	持久走	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
松濤中学校	169.9	43.7	25.1	28.7	46.7	57.1	364.2	7.9	195.9
全 国	169.2	43.4	30.1	28.4	44.0	53.1	376.8	7.8	197.7
「スコア」	49.6	49.7	42.7	50.1	52.7	56.5	51.6	47.7	49.2
3年男子									
身長	体重	握力	上肢筋力	両手体前屈	両腕体前屈	持久走	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
松濤中学校	197.0	52.2	32.4	29.0	48.1	59.8	385.8	7.6	217.9
全 国	195.0	53.2	35.4	30.3	47.1	56.1	395.1	7.4	212.4
「スコア」	58.1	48.7	45.9	47.4	51.0	51.1	47.9	52.5	49.0
1年女子									
身長	体重	握力	上肢筋力	両手体前屈	両腕体前屈	持久走	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
松濤中学校	153.2	42.7	21.8	23.1	46.5	47.3	285.8	9.2	176.9
全 国	152.0	43.4	23.9	21.1	43.7	45.5	288.6	9.9	165.0
「スコア」	32.2	46.5	49.7	33.9	53.2	53.3	33.3	46.7	50.3
2年女子									
身長	体重	握力	上肢筋力	両手体前屈	両腕体前屈	持久走	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
松濤中学校	164.3	43.2	23.7	24.2	46.4	51.1	282.5	9.0	176.9
全 国	163.0	46.6	24.4	23.7	46.0	47.0	278.4	8.2	179.7
「スコア」	48.8	46.0	44.4	30.8	49.6	57.2	54.4	51.4	44.8
3年女子									
身長	体重	握力	上肢筋力	両手体前屈	両腕体前屈	持久走	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ
松濤中学校	156.3	48.3	24.4	23.3	51.0	51.0	231.4	8.0	171.2
全 国	156.3	49.1	25.5	24.0	48.4	48.0	234.0	8.6	174.9
「スコア」	30.2	48.6	47.3	50.9	53.3	56.1	58.1	49.8	45.3

※調査は前年度比の改善率。

今月の内容

【1面】

■PHOTO SKETCH
体力テスト

■校長メッセージ
キャリア教育から

【2面】

■中学生

■祝NGR祝

キャリア教育から

外部の方を学校に招く行事(高校説明会、高校の先生による出前授業、外国人が先生等)で、松濤中の生徒の参加態度を誉められることが度々あります。集団として、落ち着いて様々な活動に主体的に取り組んでいることを実感する反面、「当たり前」のことを当たり前にする」だけで「誉められる」世の中であるとしたら、将来が心配です。

冒頭にあげた行事はキャリア教育の一環です。ところで、キャリア教育とはなんでしょう。多くの学校で先進的な試みが導入され、民間の専門講師を招いてキャリア・プランニングの講義を受けるなどの取組がされています。しかし、キャリア教育とは、分かりやすく言えば「大人への準備をする」こと。すなわち社会への適応を目指して、社会に通じる常識を身に付けさせることが土台・基礎になります。多くはしつけに含まれ、従来から家庭と学校・地域で行われてきたことです。

具体的には、「時間を守る」「約束を守る」「場に応じて正しい服装・礼儀・言葉づかいができる」などが挙げられます。さらに、「授業は真面目に受ける」「公共物や私物を大切に扱う」「ルールを守り、いじめや暴力を許さない」こと。これらのことを当たり前のこととして生徒全員が守り、正義が生きている校風ができてこそ、将来へ向けての設計、キャリア・プランニングができるのです。学校では、キャリア教育に限らず教育活動を進めるためには、落ち着いた学校の環境や校風がとても重要です。

現下の松濤中は学校集団として、紛れもなく区内一の状況です。これからは、さらに個人のレベルアップにチャレンジしてほしいと思います。失敗した経験にとらわれて、過去のことを振り返ってばかりいても未来への解決策にはなりません。しかし、自分の失敗を生かすことなしに未来を切り開けないのも真実です。その意味から、単なるチャレンジには意味はありません。何かに挑戦するには、達成したいと思うビジョン(展望：具体的な夢)があってこそ、経験を活かせるものです。

生徒一人ひとりの成長を大いに期待しています。

「人は過去に縛られているわけではない。あなたの描く未来があなたを規定しているのだ」

(アルフレッド アドラーの言葉)

中学生

中学生になると、子供たちは急に息苦しさを感じると言われます。小学校時代には子供の世界に住み、ある程度ゆったりした生活をしていましたが、中学生になると暮らしの世界が社会的な領域に広がり、大人によって指導される世界へ入っていくからです。

中学校では校則という抑制が加えられます。校則は社会生活上にルールが存在することを教えるものです。中学生にとっては窮屈なものとして受け止められます。

本来、中学生時期は、心の離乳期であり、その実際の行為が親や先生といった大人たちのはめた枠から抜け出そうとする形をとって現れます。そのときの自由と束縛の衝突によって、自己と社会の対比に直面し、社会の中の自分という自我意識に目覚めます。

ところが最近では、大人からの干渉的な働きかけに対して、「やむをえない」とか「その方がいい」といった大人任せの傾向があります。管理や干渉の生活に慣らされ、「おかしいな」、「どうしてかな」と疑問を感じないということが問題なのです。心の離乳期であり反抗期である中学生が大人の干渉を簡単に受け入れることは、自分で考える態度や習慣が育っていないからです。これが一般に言われる「指示待ち人間」の姿です。

小学生までは大人の指示的言葉を素直に受け入れることで育ちますが、中学生になると大人の指導を度拒否し自分で考えるという段階を経たうえで、納得し受け入れようとします。納得するという自覚作用が中学生の自立には必要で、このようにして社会の中での自分を育て上げていきます。

現在、子供たちを取り囲むものは間違いなく情報の渦です。数多い情報の中から状況を判断し正しい選択ができる経験を、今から蓄えておくことが重要です。そのためには物事を選択と決定権を、できるだけ子供にもたせることが大切です。子供が選択に迷ったり、決定を誤っているときは助言の援助を与えることが大人の役割です。

親の言うことに反発するのは、自分で考えようとしていることの自然な現れなのです。

祝N G R祝

(New Games Record)

3年男子 4 × 100m リレー & 男子 2,3 年 共通 400m

※生徒写真は個人情報保護のため省略。

【9.29 渋谷区立中学校陸上競技大会 於 駒沢陸上競技場】

男子 3年		GR45.10
4 × 100m 決勝		
1	松崎	44.50
2	代々木	45.38
3	原宿外苑	46.28
4	上原	48.63
5	藤田	49.37
6	広尾	51.17
渋谷本町学園		